

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 深町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

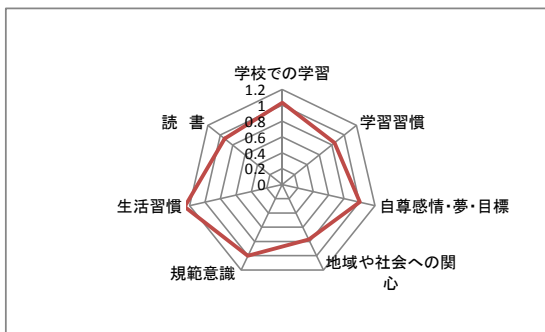
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、話すこと・聞くことは正答率が高い。 書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	ことわざの適切な使い方や漢字の読み方に関する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字を正しく書く問題については、無解答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 読むことに関しては力をつけてきている。 読み手に分かりやすく伝える工夫について、普段から意識して文章を書く習慣をつける必要がある。 	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉づかいで話す問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題については、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 無答率は低く、ねばり強く問題に取り組めるようになってきている。基本的な計算は、誤答が少なかった。 図形や数量関係に関する問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	整数の乗法の計算をする問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題は、正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 数量関係についての問題に課題がある。記述式の問題で無答率が高く、根拠を明らかにして説明する問題に抵抗を感じている児童が多いことが分かった。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された条件を基に、適切な式を立てる問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校での学習に関しては、めあてを明確に示し、まとめ・振り返りまでいねいに授業を展開するとともに、自分の考えをもたせることや表現させること、ノート指導を重視してきたので、書いたり話したりすることに抵抗が少なくなってきた。話し合う活動や自分たちで課題を立てて学習する経験を多く積んでいる。自分の考えを的確に文章に書いたり説明したりすることや、ねばり強く問題に取り組む姿勢については、児童によって差が見られる。 家庭では、学校の学習以外に全く勉強しない児童がいることや、休日の家庭学習時間が少ないことから、家庭での学習習慣の定着を図っていく必要があると考える。 地域の行事に参加している児童が少なく、地域に関心を持たせる必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> 算数学習プリント・過去問題・アシストシート・WEB問題等も活用した朝自習や宿題、家庭学習の充実と確実な実施を図る。 主題研究(算数科を中心に)で、「ノートに自分の考えを表現させる」「ノートを活用して話し合わせる」ことに重点を置き実践を行う。それを他教科にも広げ、実践していくようにする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 書物や新聞等の活字に触れ、じっくり内容を読む機会を増やすことや、家庭での学習習慣の定着、特に学校が休みの日の家庭学習の工夫と確実な実施を、通信や懇談会を通して家庭に呼びかける等、学校と家庭が連携して取り組むようにする。 給食、保健、発育測定等の時間に、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを繰り返し指導する。
--